

大 学 史 研 究 通 信

第 76 号 2013 年 12 月 6 日 (金)

大学史研究会

第 76 号の内容：会員ニュース・第 36 回大学史研究会セミナー報告・2013 年度総会報告・2013 年度会計報告・会員新刊ニュース・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記

会員ニュース

異動のあった会員

田村 幸男 会員

新所属：学校法人目白学園（常務理事）

北村 友人 会員

新所属：東京大学大学院教育学研究科

岡崎 匡史 会員

新所属：東洋大学国際共生社会研究センター

仙波 克也 会員

新所属：無所属

林 透 会員

新所属：山口大学大学教育機構大学教育センター

赤羽 良一 会員

新所属：長崎大学教育学部数理情報講座（化学）

森田 猛 会員

新所属：兵庫教育大学

福留 東土 会員

新所属：東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース

<異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします>

所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

（事務局会員情報担当：浅沼薫奈）

第 36 回大学史研究会セミナー報告

2013 年 10 月 26 日（土）～27 日（日）、中央大学・後樂園キャンパスにて大学史研究会第 36 回セミナーを開催いたしました。台風直撃の予報が出ていて開催が危ぶまれましたが、予定通り開催することができ、有意義な会となりました。2 日間で 35 名（内、非会員 6 名）の参加がありました。出席されたみなさまには、厚くお礼申し上げます。

今回のセミナーでは、会場の提供と設営について岡田大士会員（事務局代表）に全面的にお世話いただきました。また、ウイスコシン大学の Adam Nelson 教授の招聘には、五島敦子会員（事務局）にご尽力いただきました。あわせてお礼申し上げます。セミナー参加記は、次号に掲載する予定です。

（事務局セミナー担当：深野政之）

開催校からの御礼

事務局代表：岡田大士（中央大学）

皆様のご協力をもちまして、無事セミナーを終えることができました。ご存知のように今年の秋は台風が関東に上陸することが何度かありました。セミナーのあった週も台風の影響が懸念され、実はセミナーが中止になった際迷惑がかからないよう、懇親会の手配先を大学生協から近傍の文京区役所のレストランに変更したほどでした。

結局、当日は朝のうちに台風が通過し、区役所最上階に位置するレストランからは台風一過の東京の夜景を望むことができました。

土曜はお二人の先生方にたいへん貴重な講演をしていただきました。ネルソン先生に関しては、事前の勉強会にて資料を丁寧に読んで研究内容を見ていただけに、「気難しい方だったらどうしようか」と心配になりました。しかし、前日にお会いした際に、誠実ではあるものの、気さくで話しやすい方であることがすぐわかりました。

もう一人の北井先生は、実は大学史の専門家ではなく、英米法がご専門の法学者です。ただ、ご自身の教育・研究のルーツを探るうちに英吉利法律学校やその創設者たちにご興味をもたれるようになったそうです。なお、最近中央大学法学部教員によって英吉利法律学校創設時の様子を描いた『超然トシテ独歩セント欲スー英吉利法律学校の挑戦ー』（中央大学出版部、2013）が出版されており、こちらにも北井先生は原稿をお寄せになっています。また、2 日目も意欲的な自由研究の報告が行われました。たいへん刺激的な 2 日間でした。

なお、ネルソン先生を大学史研究会にご紹介いただいた五島事務局員に、この場を借りてお礼申し上げます。

2013 年度総会報告

第 36 回セミナーに引き続き、2013 年度の総会が開催されましたので、その議事録を掲載いたします。

大学史研究会 2013 年度総会議事録

2013 年 10 月 27 日

於 中央大学 3 号館 (3300 号室)

文責：井上美香子

1. 本年度の活動

1.1. 事業報告

岡田局員より、本年度はニューズレター『大学史研究通信』を 4 号 (72, 73, 74, 75 号) 刊行するとともに、ペンシルバニア州立大学のロジャー・ガイガー (Roger L. Geiger) 教授が来日され、2013 年 2 月 12 日に東北大学高等教育開発推進センター主催・大学史研究会共催のセミナー講演会が東北大学東京分室で開催されたとの報告があった。

1.2. 紀要『大学史研究』25 号について

岡田局員より、紀要の編集および刊行準備状況等について説明があり、2013 年 11 月頃刊行予定との報告があった。

1.3. 2013 年度決算の報告・会計監査報告

会計の山崎局員より、決算報告が行われたのち、続いて監査の吉野剛弘会員より、今年度も問題なく会計業務が執行されていることが報告されたのち、決算が承認された。

2. 次年度の活動

2.1. 事業計画

岡田局員より、第 37 回大学史セミナーを九州大学箱崎キャンパスで開催することが提案された。

2.2. 2014 年度予算の提案

山崎局員より来年度予算が提案されたのち、全会一致で承認された。

2.3. 2014 年度事務局員体制の提案

岡田局員より、「事務局代表の交代および、新事務局員の勧誘を行い、来年度のセミナーで新しい事務局体制が報告できるようにしたい。適任の方がいれば事務局にご推薦願いたい」との提案があった

<事務局体制>

代表 岡田大士

会計・名簿 山崎慎一、浅沼薫奈

通信 五島敦子、長谷部圭彦

セミナー 井上美香子、深野政之

2013 年度会計報告

大学史研究会 2013 年度会計ならびに 2014 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

*** 2013 年度の収支報告**

【 収入 】

2012 年度会計からの繰越金は、4,378,471 円でした。2013 年度年会費につきましては、85 名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、628,000 円でした。今年度は、年会費滞納者からの会費納入があったことにより、納入総額は前年度を上回っておりますが、年会費の納付率自体は 66%であり、概ね前年通りの納入率となりました。また、年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

その他の収入としましては、『大学史研究』（紀要）の売上金、26,580 円がありました。2013 年度の総収入額としましては、5,208,147 円、前年度繰越金を除いた実収入額は、829,676 円でした。

【 支出 】

編集委員会会議費・交通費は、22,650 円、事務局会議費・交通費は 46,300 円でした。印刷費は、13,921 円です。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費です。

通信費の支出は、70,466 円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキや、その他宅配便等の経費です。

消耗品費・手数料は、2,840 円です。これは、事務局運営にあたっての文房具・ラベル・用紙・送金手数料等の経費にあたります。また、謝金として、12,000 円を支出いたしました。これは、「大学史研究通信」の発送等一度に大量の作業がある際のアルバイトの経費等となります。

次年度繰越は、5,039,970 円、来年度繰越金を除く総支出は 168,177 円でした。繰越金を除く収支の差は、661,499 円のプラスとなりました。ただし、このプラスは、今年度の会計報告時点では、大学史研究会紀要関連費用の計上がなかったことによるものです。

「2013 年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は吉野剛弘会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙のところ監査業務を賜りました吉野会員には、この場を借りてお礼申し上げます。

*** 2014 年度の予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。

例年と同様、2014 年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

【 収入案 】

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの600,000円を収入予定額として設定いたしました。繰り返して恐縮ではありますが、2013年度も会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

紀要売上金は、昨年度までの売上金を参考に30,000円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力により売り上げを伸ばしていただいていることが関わっております。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、第36回セミナー開催費の戻し入れ額を50,000円と見積もっております。セミナー開催経費につきましては、後述の支出案をご参照下さい。

総収入額は5,720,970円、繰越金を除く総収入額は681,000円といたしました。

【 支出案 】

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

『大学史研究』を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を550,000円計上しました。

編集委員会会議費・交通費は50,000円、事務局会議・交通費は昨年度の実績を踏まえ50,000円としました。

研究会開催準備費は、研究会開催に向けて事前に開催校にお預けする費用です。通常ですと参加費で経費は賄えますので、収入欄にも記載しましたように、翌年度そのまま戻し入れていただくことが想定されます。

その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。消耗品費・手数料は10,000円、謝金及び印刷費は20,000円、通信費は75,000円でこれはホームページの費用も含まれています。予備費として100,000円を計上しております。

2013年度から次年度への繰越金は4,725,970円、繰越金をのぞく総支出予算案は995,000円を予定しております。

本研究会におきましては、全体として緊縮財政をうたってはおりますものの、研究会として有益と認め得る支出につきましてはやぶさかではありません。大学史研究会の発展のため、あるいは、会員サービスのために必要な支出の要請がありました際には、事務局で検討し、それが妥当であると判断した場合には、これにお応えしていきたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ、幸いに存じます。

以上、「2013年度会計報告」および「2014年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

（事務局会計担当：山崎慎一）

大学史研究会 2014年度 予算案

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥5,039,970	雑誌「大学史研究」関連費用	¥550,000
年会費・入会金	¥600,000	編集委員会会議費・交通費	¥50,000
「大学史研究」売上金等	¥30,000	事務局会議・交通費	¥50,000
第36回セミナー開催経費等戻し入れ	¥50,000	研究会開催準備費	¥100,000
利息	¥1,000	消耗品費・手数料	¥10,000
		謝金(アルバイト)	¥40,000
		印刷費	¥20,000
		通信費	¥75,000
		予備費	¥100,000
		次年度繰越金	¥4,725,970
計	¥5,720,970	計	¥5,720,970
前年度繰越金を除く総収入	¥681,000	次年度繰越金を除く総支出	¥995,000

大学史研究会 総会 資料 (2013年10月26日:中央大学)

大学史研究会 2013年度 会計報告
(自2012年8月25日 ~ 至2013年9月30日)

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥4,378,471	編集委員会会議費・交通費	¥22,650
年会費・入会金	¥628,000	事務局会議・交通費	¥46,300
「大学史研究」売上金等	¥26,580	印刷費	¥13,921
第35回セミナー開催経費等戻し入れ	¥74,640	通信費	¥70,466
利息	¥456	消耗品費・手数料	¥2,840
学会準備金戻し入れ	¥100,000	謝金(アルバイト)	¥12,000
		次年度繰越金	¥5,039,970
計	¥5,208,147	計	¥5,208,147
前年度繰越金を除く総収入	¥829,676	次年度繰越金を除く総支出	¥168,177
		上記収支差し引き	¥661,499

上記のとおり、ご報告いたします。事務局会計担当 山崎慎一

上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等は、全て妥当かつ正確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

会計監査

吉竹内弘



会員新刊ニュース

鈴木秀幸著『地域文化史の調査と研究』日本経済評論社、2013年10月。

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

『大学史研究』25号は、11月に校正を行い、12月に刊行いたします。刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

次号26号は来年度の刊行を目指しております。投稿を検討中の会員の方は、岡田(daishi@home.nifty.jp)までお問い合わせください。次回の編集委員会は12月26日開催の予定です。

事務局からのお知らせ

『大学史研究』25号がもうすぐ会員の皆様のお手元に届くこととなります。大変お待たせいたしました。紀要の発行は研究会活動の重要なバロメーターであります。引き続き皆様の投稿をお待ちしております。

編集後記

本年度のセミナーでは、アダム・R・ネルソン教授の記念講演の機会をいただき、誠にありがとうございました。今回の招聘は、科学研究費補助金基盤研究(C)「アメリカ高等教育における知的財産権のガバナンスに関する歴史研究」(研究代表者:五島敦子)の研究の一環として実施いたしました。この場をお借りして、会員の皆様に御礼申し上げます。

私がネルソン先生のご研究に関心をもったのは、Laurence R. Veyseyの追悼特集号に掲載された論文(Nelson, A.R., "The Emergence of the American University: An International Perspective," *History of Education Quarterly*, Vol. 45, No. 3 (Fall, 2005))がきっかけです。この論文は、19世紀後半のアメリカ的大学の形成が注目されてきた従来の研究に対し、18世紀末から19世紀前半に着目し、知識人の国際交流がアメリカの大学の形成に果たした役割を示唆したものでした。ナショナリズムとインターナショナルナリズムの相克をグローバルイゼーションの文脈に位置付けて読み解くことで、アメリカ大学史の書きかえに挑むという、チャレンジングな内容です。

今回は、その論文以降に蓄積された研究をまとめた著書(刊行予定)の一部をご講演いただきました。ネルソン先生のご研究を読んでいると、知識人たちの出会いと葛藤の物語に滑り込み、あたかも目の前でみているような感覚になりますが、そのリアリティは豊富な史料に裏付けられたものと思います。UW-Madisonでお目にかかる度に、新しいチャプターの話がうかがってききましたが、こうして日本で講演いただくことができ、うれしい限りです。

今年の2月には、ロジャー・ガイガー先生の招聘講演に参画させていただき、アメリカ大学史研究の到達点に触れることができました。10月には、近年の新しい研究の波をあらわす若手研究者のひとりとして、ネルソン先生をお招きし、日本の若手研究者の方々と交流していただく機会ができました。勉強の面白さを感じた、充実した1年となりました。

(事務局通信担当:五島敦子)

『大学史研究通信』第76号の編集は、事務局・五島敦子が担当いたしました。
連絡先：agoshima@nanzan-u.ac.jp

『大学史研究通信』第77号は、2014年1月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〈事務局連絡先〉

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1
中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会
Tel&Fax: 042-674-3151 E-mail: daishi@home.nifty.jp
ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします
E-mail: jshshe@daigakushi.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼 薫奈（大東文化大学）	井上 美香子（九州大学大学文書館百年史編集室）
岡田 大士（中央大学）	五島 敦子（南山大学短期大学部）
長谷部 圭彦（上智大学等）	深野 政之（大阪府立大学）
山崎 慎一（桜美林大学）	